

## 第4回 IAAF 世界リレー大会帯同報告

田原圭太郎<sup>1)</sup>

1) 多摩総合医療センター 整形外科

鎌田浩史<sup>2)</sup>

2) 筑波大学医学医療系 整形外科

### 1. はじめに

第4回 IAAF 世界リレー大会は2019年5月11日～5月12日の日程で横浜国際総合競技場において行われた。この大会のオリンピック種目に関しては同年9月のドーハ世界選手権への出場権がかかる大会であり、同世界選手権で東京オリンピックへの出場権を獲得することができる。そのため、東京オリンピックへの第1歩となる大会であり非常に重要な大会であった。5月9日に現地集合、同日に結団式を行い、その翌々日より試合開始という日程であったため集合から試合までの期間が短く、選手の状態の把握が難しかった。選手団はスタッフ20名、選手44名（男子23名・女子21名）の総勢64名で結成され、その内メディカルサポートとしては医師2名トレーナー4名が帯同した。

### 2. 派遣前準備

事前に選手へメディカルアンケートを送付し、選手のコンディショニングの状況や怪我の有無、内服薬やサプリメントなどのチェックを行った。結団式



写真1 メディカルスタッフ

の中で選手およびスタッフヘドローピングに関する注意事項として、サプリメントに関する情報（サプリメント摂取の基本8ヶ条）を提供した。

大会前のグランプリシリーズにおけるメディカルサポートやメディカルアンケートで選手のコンディショニング情報を収集した。アキレス腱炎の選手が3名、直近に足関節捻挫を負傷した選手が1名、背部痛がある選手が1名いた。大会前にJISSでの診察やMRIでの精査を行っていたが、コンディショニングを整えるまでの期間が少なく帯同中のメディカルサポートが非常に重要であった。

### 3. 渡航および現地の状況

横浜で行われたため、気候・食事・ホテルや競技場の環境的に問題はなかった。5月の開催であったが、試合は夜に行われたため気候的には寒かった。

### 4. 医療活動

#### <整形外科>

整形外科的なサポートとしては、ハムストリング肉ばなれ疑い1名、足趾挫創1名、足関節捻挫1名に対応した。

先にも述べたように帯同中にアキレス腱炎を抱えていた選手のサポートを行い、試合では良い成績をおさめることができた。さらに、その後のフォローに関してもメディカルチームで選手と相談し、大会後も継続したメディカルサポートを行うことができた。

大会最終日に受傷した足趾挫傷の選手に診療情報提供を作成し医療機関への受診を指示した。

#### <内科>

国内開催であったため、時差や衛生面、食事の問題はなく、他国での開催時と比較し、体調管理はしやすい状況であった。最終日に風邪症状がでた選手

がいたが、最終日で国内試合であったため薬を処方し帰宅とした。

## 5. ドーピングコントロール

男女混合マイルリレーで日本新記録を樹立したため、ドーピングコントロールを申請し検査を行った。

## 6. 成績

男女混合シャトルハードルリレーで銀メダル、男女混合2×2×400mリレーで銅メダルを獲得し、男子マイルリレーはドーハ世界陸上の出場権を獲得した。

## 7. まとめ

大会前の期間も短く、国内での国際大会で難しい面もあったが、スタッフの皆様と協力し大きな事故なく終了することができた。短距離のアキレス腱炎やハムストリング肉ばなれに関して重点的なメディカルサポートの必要性を感じており、その予防が今後の重要な課題である。